

Ⅲ 土 壤

1 土壤概説

1.1 山地丘陵地地域の土壤（林地土壤）

本年度の調査対象地域は「明智」「根羽」「満島」の3図幅の本県分である。本地域は県最北部に位置し、岐阜、長野、静岡の3県に隣接する。「根羽」図幅の天狗棚を分水嶺として矢作川流域と天竜川流域に2大別され、地質なども著しく異なる。矢作川流域は中央部の伊勢神峠の尾根で分けられる。つまり、西側は小原村、旭町の小原花崗岩（角閃石黒雲母花崗閃緑岩）域で標高500m前後、100m内外の小起伏を有し、あまり開析の進んでいない高原状をなし、この起伏面の北と南は粗粒な花崗岩類から成り立ち、崩壊面が著しく開析された対照的な地形である。東側は800～1,000mの目立ったピークのない高原状の大きな山体をなしている。伊勢神峠から矢作第一ダム周辺にかけては気峻で他と趣を異にする。

天竜川流域は1,000m内外の高原状地形に県内最高峰の茶白山（1,415m）をはじめいくつかの顕著なピークが認められるが、これは第三紀の火山でその他は一般になだらかな地形を示す。しかしながら富山村は例外で、標高差900m前後と大きく非常に急峻である。

地質は、矢作川流域が新期花崗岩類（角閃岩黒雲母花崗閃緑岩、黒雲母花崗岩、両雲母花崗岩など）と領家変成岩類（片状ホルンフェルス）で大部分を占め、片状ホルンフェルスがいわゆる小原花崗岩と武節、伊奈川花崗岩を分ける。天竜川流域は非常に複雑で、天狗棚から新野峠にかけて新第三紀の設楽層群と新期岩崗岩類、領家変成岩類が複雑に入りこみ、新野峠以東は古期花崗岩類と領家変成岩類及び塩基性岩類で占められる。

植生は、900～1,000m以上でブナ等の温帯林が、それ以下はシイ・カン類の暖帯林が成立するはずであるが、ブナ林は面ノ木峠、碁盤石山、茶白山などにわずかに残っているにすぎず、暖帯林は皆無でスギ、ヒノキの人工林とコナラ、アベマキ、ミズナラ、アカマツなどの二次林となっている。人工林は東に行くにつれ多くなり、特に豊根村などは県内でも有数な林業地を形成している。

土壌は大部分が褐色森林土であるが一部には黒色土が出現する。これらを地質、母材、断面形態などにより次の2土壌群、5土壌統群、25土壌統に区分した。

土壌群	土壌統群	土壌統
褐色森林土	乾性褐色森林土(黄褐系)	村積山 1 統
		瀬戸 1 統
		大多賀 1 統
		立野 1 統
		天堤 1 統
	乾性褐色森林土(赤褐系)	大ヶ蔵連 統
	褐色森林土(黄褐系)	村積山 2 統
		瀬戸 2 統
		御内蔵連 統
		大多賀 2 統
		立野 2 統
		天堤 2 統
		萩太郎 統
	寧比曾 統	
	布里 統	
白鳥山 統		
柿平 統		
黒川 2 統		
桜平 統		
離山 統		
黒色土	褐色森林土(赤褐系)	佐太 統
	黒色土	天狗棚 統
		折元 統
黒田 統		

褐色森林土のうち乾性褐色森林土壌（黄褐色系）は、西部の藤岡町、小原村などに広く分布し、東に行くにつれ尾根筋等に限られる。乾性褐色森林土壌（赤褐色系）は小原村の小原花崗岩域の小起伏上に点在し、一部では赤色土壌の色相を有するものもみられる（林野土壌の分類では赤色土壌に入るものも少なくない）。図示していないが赤褐色系の出現する地域（小原花崗岩域）の尾根、中腹以上では7.5 Y Rの色相を有する土壌も出現する。褐色森林土（黄褐色系）は西部では沢沿、北面の中腹以下の歩行、崩積様式に出現するが、東に行くにつれ、尾根付近までみられる。なお、図示されていないが湿性褐色森林土壌が沢筋に一部出現し、西部の花崗岩域の沢にはグライ化土壌もみられる。褐色森林土壌（赤褐色系）は「満島」図幅の天竜川沿の段丘面に局所的に出現するにすぎない。黒色土は中央部の高原の広い尾根上の平坦面から斜面にかけて局所的に出現するのみである。

なお、林野土壌の分類に合わせると乾性褐色森林土壌（黄褐色系）は $yB_B \cdot B_B$ が大部分で、広い尾根上などには $yB_C \cdot BC$ になる。また乾性褐色森林土壌（赤褐色系）は $rB_B \cdot R_B$ が大部分を占める。褐色森林土壌（黄褐色系）は同様な分類から yB_D $yB_D(d) \cdot B_D \cdot B_D(d)$ となり、褐色森林土壌（赤褐色系） $rB_D(d) \cdot rB_D$ に当てはまる。

林地の生産力についてみると褐色森林土壌が大部分を占める稲武・津具・豊根村などはスギ、ヒノキの生育に適しており経済的に見合う林業経営が可能であり、県内有数の林業地を形成している。しかし、標高の高い所とか広い尾根は粘土分の多い土壌が見られ、ヒノキの造林はトックリ症状が出現することも考えられるので注意を要する。また、生長とも考え合わせて、尾根などはミズナラ、コナラなどの広葉樹を育成し、シイタケ原木材として活用する方が有利と思われる。東加茂郡は褐色森林土壌が比較的広く分布する。林木の生長は普通であるが、深層風化した花崗岩類のため山地保護に留意したコナラ、モンゴリナラなどの広葉樹の育成を図り、シイタケ原木林としての活用を含めた多様な施業法が望ましい。西加茂郡は小原花崗岩域が東加茂郡と同様な施業が有利と思われるが、他所は山地崩壊が著しく、また、A層の薄い乾性褐色森林土壌が大部分を占めるためスギ、ヒノキなどの人工林の林業経営は無理と思われる。むしろ土壌浸食防止、生活環境保全、水源かん養などの

公益的機能に配慮した施業、例えばコナラ、モンゴリナラ、アベマキなどの広葉樹の育成を図り、シイタケ原木林としての利用を考えた施業が良いと思われる。

1.2 台地及び低地域の土壌（農地土壌）

1.2.1 明智図幅

本地域は愛知県の中央北部に当たり、岐阜県と境を接する中山間地域である。

地域の大部分は、黒雲母花崗岩、角閃石黒雲母花崗岩などの花崗岩によって占められている。これらの地層は標高300～1,100mの地形複雑な山地を形成している。

本図幅の水田は、山間の狭い開折谷に分布する棚田が大部分を占めており、このため地形、標高のわずかな差違により異なった土壌統に属することが多い。一般的には山側の高位面には黄色土壌の平岩統及び灰色低地土壌の深津、針曾根統が分布しており、低位の湿田にはグライ土壌の寺津、開正統が分布している。

また、矢作川の河川敷には砂質土壌の鶉多須統が点在する。

畑土壌は褐色森林土壌の柏原統及び幡豆統が全面積の80%を占め、この2統が地域を代表する土壌統になっている。両統とも花崗岩を母材とする黄褐色を呈する壤～粘質土壌である。柏原統は下層に花崗岩腐朽礫層をもつ残積土であるのに対し、幡豆統は崩積土である。山地傾斜面に分布し、表土の礫含量は多い。野菜畑、樹園地、牧草地となっている。

明智図幅の土壌群、土壌統を一括すれば次のとおりである。

土壌群	土壌統群	土壌統数
褐色森林土	褐色森林土壌	3
赤黄色土	黄色土壌	1
灰色低地土	灰色低地土壌	2
	粗粒質灰色低地土壌	1
グライ土	グライ土壌	2

1.2.2 根羽・満島図幅

本地域は東三河北東部の山間地域に位置し、標高300～1,400mの連山に囲まれ、山林面積が全体の90%以上を占める。このため、平坦部は極めて少なく、急傾斜地の連続である。

東部及び北西部は雲母花崗岩、角閃石黒雲母花崗岩を主体とした花崗岩類がほとんどを占め、北部及び中央部は雲母片麻岩、珪質片麻岩を主とした領家変成岩類によって占められている。

本図幅の農耕地は以上の地質からなる山地の谷間や低地の段丘上に分布し、畑、樹園地は傾斜面に分布している。

灰色低地土壌は矢作川上流及び名倉川に沿う沖積谷底平野に、多湿黒ボク土壌及び黄色土壌は、津具村中央を貫流する大入川流域の地溝盆地に比較的まとまって分布している。

山間部水田の一般的な特徴として、かんがい水の水温が低いこと、漏水が共通的な阻害要因となっている。

畑、樹園地は小規模で水田付近の傾斜地及び山地の傾斜面に分布し、褐色森林土、灰色台地土、黄色土壌に区分される。いずれも礫が多く、傾斜地であるため浸食のおそれがある。

また、県最北端の富山村には水田がなく、天竜川沿いの山地急斜面には石垣で築かれた段々畑が約14haあり、普通畑、樹園地となっている。

根羽・満島図幅に分布する土壌群、土壌統群を示せば次のとおりである。

土壌群	土壌統群	土壌統数
黒ボク土	厚層黒ボク土壌	1
	表層腐植質黒ボク土壌	2
	多湿黒ボク土壌	1
褐色森林土	褐色森林土壌	3
灰色台地土	粗粒質灰色台地土壌	1
赤黄色土	黄色土壌	5
灰色低地土	灰色低地土壌	2

2 土壤細説

2.1 山地及び丘陵地地域の土壤（林地土壤）

2.1.1 乾性褐色森林土壤（黄褐色系）

この土壤統群は山地の乾燥しやすい地域に分布し、10YRの色相を有する土壤である。主に母材の違いにより次の6つの土壤統に区分した。

村積山1統	花崗岩類を主な母材とするもの
瀬戸1統	花崗岩類を主な母材とするもの
大多賀1統	花崗岩類を主な母材とするもの
立野1統	花崗岩類を主な母材とするもの
天提1統	設楽層（泥岩、砂岩、凝灰岩）を主な母材とするもの
黒川1統	深成岩（変ハンレイ岩）を主な母材とするもの

村積山 1 統

瀬戸、足助図幅に続く南西部と小原村の岐阜県境部に出現する主に 10 YR の色相を有する褐色森林土である。広い尾根上には、7.5 YR の色相を有する土壌もみられる。地形は一般に急峻で崩壊面も少なくない。A 層は浅く未発達である。土性は砂質壤土が大部分で母材の粒子が大きいため石礫が富むことが多い。林木の生長は不良で、スギ、ヒノキには適さない。斜面保護のためにもコナラ、モンゴリナラ等の広葉樹の育成が重要である。

代表断面 (地点番号 ①) その 1

位 置 西加茂郡藤岡町上川口

海 抜 高 140 m 傾斜 25° 方向 S80°W

地 質 ・ 地 形 新期花崗岩類

東西に延びる尾根の南西、中腹斜面

母材・堆積様式 黒雲母花崗岩、歩行土

林 況 高木層は樹高 10~12 m、7 令級のアカマツにコナラを混交し、亜高木層はソヨゴ、イヌツゲ、シロモジ、アセビ、低木層はソヨゴ、コバノミツバツツジ、草本層はイヌツゲ、ソヨゴなどが混じる。

断 面 状 態 L : 4 cm アカマツ、広葉樹の葉と枝が密に堆積

F : 1 cm 密に堆積 } 菌糸・菌根がすこぶる富む。

H : 1 cm 密に堆積 }

層位	厚さ cm	層界	土性	礫	土色	腐植	構造	粗密度	粘り	水湿	根		備考
											草本	木本	
A	3	明瞭 漸変	砂質壤土	細角礫すこぶる富む	黒 褐 (10YR ^{2/2})	すこぶる富む	細粒状	中	零	乾	なし	小根含む	
B ₁	21		砂質壤土	細角礫すこぶる富む 中角礫あり	にぶい黄褐 (10YR ^{5/4})	乏し	粒状	中	弱	半乾	なし	小中根あり	
B ₂	70+		砂質壤土	細角礫すこぶる富む	黄 褐 (10YR ^{5/6})	乏し	なし	中	弱	半乾	なし	小根あり	

代表断面

(地点番号 ④)その2

位置 西加茂郡小原村干洗
 海拔高 440 m 傾斜 18° 方向 S82E
 地質・地形 新期花崗岩類
 小起伏の南面緩斜面

母材・堆積様式 角閃石黒雲母花崗閃緑岩(小原花崗岩)残積土
 林 況 高木層は樹高15mのアラカン、シラカン、ホウノキが混交し
 亜高木層はシラカン、ヤブツバキが散在し、草本層はミヤコザサ、ヒサカキ、ヤブコウジが混じる。

断面状態 L: 2cm 広葉樹の葉と枝が密に堆積
 F: 4cm 密に堆積
 H: 3cm 密に堆積

層位	厚さ cm	層界	土性	礫	土色	腐植	構造	粗密度	粘り	水湿	根		備考
											草本	木本	
A	4	明瞭 漸変	壤土	細角礫あり	黒 褐 (7.5YR 3/2)	富む	粒状	粗	中	半乾	なし	小根富む	
B ₁	45		砂質壤土	細角礫あり	褐 (7.5YR 4/6)	乏し	堅果状	中	中	半乾	なし	小中根含む 大根あり	
B ₂	50+		砂質壤土	細角礫あり	明 褐 (7.5YR 5/8)	乏し	堅果状	中	中	半乾	なし	小根あり	

大多賀1統

旭町、稲武町の武節花崗岩域の主に尾根に出現する10YRの色相を有する乾性の褐色森林土である。広い尾根筋には植質な土壌が見られるが、一般には壤土、砂質壤土の土性となる。A₀層は厚く堆積し、A層は未発達で、アカマツ、広葉樹の二次林の場合が多い。一部にはヒノキが造林されているが生長は不良である。

代表断面

(地点番号 ⑤)

位 置 北設楽郡稲武町木地山
 海 抜 高 760m 傾斜 10° 方向 N20°E
 地 質 ・ 地 形 新期花崗岩類
 北に延びる尾根上平坦面
 母材・堆積様式 両雲母花崗岩(武節花崗岩)、残積土
 林 況 高木層は樹高10~12m、10令級のアカマツとヒノキの混合林で亜高木層はヒノキにコシアブラが混交する。草本層はミツバツツジ、ツクバネウツギ、アオハダなどが点存する。
 断 面 状 態 L: 2~4cm アカマツ、広葉樹の葉と枝が密に堆積
 F: 4cm 密に堆積、細根がすこぶる富む。
 H: 2cm 密に堆積

層位	厚さ cm	層界	土性	礫	土色	腐植	構造	粗密度	粘り	水湿	根		備考
											草本	木本	
A ₁	5~6	明僚	埴質壤土	細角礫あり	黒 褐 (10YR ² / ₂)	すこぶる富む	粒状	粗	中	やや乾	なし	小中大根含む	
A ₂	10~12		砂質壤土	細角礫含む	黒 褐 (10YR ³ / ₂)	富む	粒状堅果状	やや粗	弱	やや乾	なし	小中根含む	
B	4~19	明僚	砂土	細角礫含む	黄 褐 (10YR ⁵ / ₆)	乏し	粒状堅果状	やや密	零	半乾	なし	小中根あり	
C	+	判然		レキ土									

立野 1 統

主に稲武町、津具村に出現する 10 YR の色相を有する乾性の褐色森林土である。図示されていないが狭い急峻な尾根筋には乾性ポドソルもみられる。土性は壤土～砂土で、広い尾根筋では埴質壤土も出現する。A₀層は著しく厚く堆積する。生産力が低いため、アカマツ林、コナラ林が大部分であるが、一部にはヒノキ造林地がみられるが生長は良くない。

代表断面

(地点番号 ⑥)

位置 北設楽郡稲武町大桑
 海抜高 900 m 傾斜 20° 方向 S80°W
 地質・地形 新期花崗岩類
 北東から延びる尾根上やや緩斜面
 母材・堆積様式 角閃石黒雲母花崗閃緑岩(伊奈川花崗岩)残積土
 林 況 高木層は樹高 20 m、15 齢級のアカマツ天然性林で、亜高木層は樹高 10～12 m、10 齢級のヒノキ人工林。低木層はスズにアオハダ、シロモジ、ネジキ、コナラ、ミツバツツジ、などが混交する。草本層はバイカツツジ、ミヤコザサ、ウスノキなどが散在する。

断面状態 L: 2～3 cm アカマツ、広葉樹の葉と枝が密に堆積
 F: 3～5 cm 密に堆積、細根すこぶる富む
 H: なし

層位	厚さ cm	層界	土性	礫	土色	腐植	構造	粗密度	粘り	水湿	根		備考
											草本	木本	
HA	3	明 係 判 然 明 係 判 然 漸 変	壤土	細角礫あり	灰黄黒褐 (10YR 3.5/2)	富む	細粒状	粗	弱	乾	小根あり	小根すこぶる富む 中根富む 大根含む	
A ₁	7		壤土	細角礫含む	黒褐 (10YR 3/2)	富む	細粒状 粒状	粗	弱	乾	なし	小根富む 中根含む 大根あり	
A ₂	20～30		砂質壤土	細角礫富む	黒褐 (10YR 2/2)	すこぶる富む	粒状 堅果状	中	弱	半乾	なし	小根富む 中根あり	
B ₁	6～10		砂土	細角礫富む	黄褐 (10YR 6/5)	乏し	堅果状	やや密	零	半乾	なし	小根含む	
B ₂	27～33		砂土	細角礫 レキ土	明黄褐 (10YR 6/6)	乏し	なし	やや密	零	半乾	なし	小根あり	
C	27+		砂土	細角礫 レキ土	—	乏し	なし	密	零	半乾	なし	小根あり	

天堤1統

津具村の北部の広い尾根上の地形に局所的に出現する10YRの色相を有する乾性の褐色森林土である。天堤2統の乾性型土壌である。土壌層は一般にうすく、比較的A₀層が発達する。土性は埴土から埴質壤土で粘土分が多い。林木の生長は良くなく、アカマツ、広葉樹林になっているが、一部にはヒノキ、スギの造林がみられるが良くない。

代表断面

(地点番号 ⑦)

位 置 北設楽郡津具村木地山
 海 抜 高 900m 傾斜 18° 方向 S15°W
 地 質 ・ 地 形 新第三紀設楽層群
 南北に延びる小尾根上緩斜面
 母材・堆積様式 泥岩、砂岩 残積土
 林 況 高木層は樹高10～12m6齢級のアカマツとスギの混交林で草本層はコナラ、クリ、チゴユリ、リョウブ、ミツバツジ、ワラビ、カリヤス、フモトスミレなどが混じる。
 断 面 状 態 L: 2cm アカマツ、スギ、広葉樹の葉と枝が密に堆積
 F: 2cm 密に堆積
 H: 1～2cm 密に堆積

層位	厚さ cm	層界	土性	礫	土色	腐植	構造	粗密度	粘り	水湿	根		備考
											草本	木本	
A ₁	10	漸変 明僚 漸変	埴土	なし	暗 褐 (10YR 3/3)	富む	細粒状 粒状	や粗	強	乾	小根あり	小根すこぶる富む 中根含む 大根あり	
A ₂	22~26		埴土	細角礫あり	にぶい黄褐 (10YR 4/3)	含む	細粒状 粒状 堅状	中	強	乾	なし	小中根含む	
B	19~23		埴土	細小角礫 富む	明 黄 褐 (10YR 6/8)	乏し	堅果状	密	強	半乾	なし	小根あり	
C	45+		埴土	小中角礫 レキ土	黄 褐 (10YR 5/8)	乏し	なし	密	強	半乾	なし	小根あり	

黒川1統

変ハンレイ岩の母材からなる10YRの色相を有する乾性褐色森林土である。豊根村と旭町の尾根筋、斜面上部に局所的に出現する土壌である。土性は壤土から砂土でA層は厚く堆積し、A層は未発達である。ミズナラ、コナラなどの広葉樹が多いが、一部ではヒノキの造林がなされているが、生長はあまり良くない。

代表断面 (地点番号 ⑧)

位 置 北設楽郡豊根村宝地峠
 海 抜 高 985m 傾斜 8° 方向 S55°E
 地 質 ・ 地 形 深成岩類

北西から南東に走る尾根上平坦面

母材・堆積様式 変斑粘岩 残積土
 林 況 亜高木層は樹高8m、5齢級のコナラ、ミズナラが優占し、ヤマザクラ、クリ、アオハダが混交する。低木層はスズが優占し、ミツバツツジ、ツノハツバミが混じる。草本層はコアシサイ、ウスノキなどが点在する。

断 面 状 態 L: 5cm 広葉樹、スギ、スズの葉と枝が密に堆積
 F: 3cm 密に堆積し細根がすこぶる富む
 H: 少々

層位	厚さ cm	層界	土性	礫	土色	腐植	構造	粗密度	粘り	水湿	根		備考
											草本	木本	
A	10~12	明礫 判然 渐变	壤土	なし	にぶい黄褐 (10YR ⁴ / ₃)	含む	粒状 堅果 状	密	弱	半乾	なし	小根含む 中根含む 大根あり	
B ₁	14~23		砂質 壤土	なし	黄 褐 (10YR ⁵ / ₆)	乏し	粒状 堅果 状	中	弱	半乾	なし	小中根 含む 大根あり	
B ₂	13~36		砂土	なし	明 黄 褐 (10YR ⁶ / ₇)	乏し	なし	中	零	半乾	なし	小根あり	
C	60+		砂土	なし	明 黄 褐 (10YR ⁶ / ₆)	乏し	なし	やや 密	零	半乾	なし	小根あり	

2.1.2 乾性褐色森林土壌(赤褐色系)

この土壌統群は小原村の小起伏尾根上に分布する主に5YRの色相を有する土壌である。

大ヶ蔵連続 花崗岩類を主な母材とするもの

大ケ蔵連統

小原花崗岩域中の小原村の一部に出現する主に5YRの色相を有する乾性褐色森林土である。一部には2.5YRの色相を有する赤色土、7.5YRの色相の褐色森林土壌もみられ複雑である。主に広い尾根の平坦面から斜面にかけて出現する。土性は埴質壤土から壤土である。A層は浅く未発達である。アカマツにコナラ、モンゴリナラを混える低生産林分で占められる。

代表断面

(地点番号 ⑨)

位 置 西加茂郡小原村大ケ蔵連
海 抜 高 440m 傾斜 5° 方向 N88°W
地 質 ・ 地 形 新期花崗岩類

小起伏頂上平坦面
母材・堆積様式 角閃石黒雲母花崗閃緑岩(小原花崗岩)残積土
林 況 亜高木層は樹高5~6m、4齡級のアカマツ、コナラにソヨゴが混交し、低木層はヒサカキ、ソヨゴにネズ、コバノミツバツツジ、ヤマツツジ、リュウブが混交する。草本層はミヤコザサにサルイリイバラ、イヌツゲ、ツルリンドウが散在する。

断 面 状 態
L: 2cm アカマツと広葉樹の葉と枝が密に堆積
F: 1cm 密に堆積
H: 1~2cm 密に堆積、小根がすこぶる富む

層位	厚さ cm	層界	土性	礫	土色	腐植	構造	粗密度	粘り	水湿	根		備考
											草本	木本	
A	5~6	判然明瞭漸変明瞭	埴質壤土	細角礫含む 小角礫あり	暗 褐 (7.5YR 3/4)	含む	粒状	中	中	やや乾	なし	小中根含む	
AB	9~10		埴質壤土	細角礫含む	明 赤 褐 (5YR 5/6)	乏し	堅果状	やや密	強	半乾	なし	小根含む 中根あり	
B ₁	14~15		壤土	細角礫あり	明 赤 褐 (3.75YR 5/6)	乏し	弱い堅果状	中	中	半乾	なし	小中根あり	
B ₂	20~35		壤土	細角礫富む	赤 褐 (25YR 4/8)	乏し	壁状	やや密	弱	半乾	なし	小根あり	
BC	50+		砂質壤土	細角礫富む	明 赤 褐 (5YR 5/6)	乏し	なし	密	零	半乾	なし	小根あり	

2.1.3 褐色森林土壌（黄褐色）

この土壌統群は西部では主に沢筋に中～東部では尾根に近い所までの大部分に出現する10YRの色相を有する土壌である。母材の違いにより次の14の土壌統に区分した。

村積山2統	花崗岩類を主な母材とするもの
瀬戸2統	花崗岩類を主な母材とするもの
御内蔵連続	花崗岩類を主な母材とするもの
大多賀2統	花崗岩類を主な母材とするもの
立野2統	花崗岩類を主な母材とするもの
天堤2統	設楽層群（泥岩、砂岩、凝灰岩）類を主な母材とするもの
萩太郎統	設楽層群（玄武岩）類を主な母材とするもの
寧比曾統	領家変成岩（片状ホルンフェルス）類を主な母材とするもの
布里統	領家変成岩（片麻岩）類を主な母材とするもの
白鳥統	領家変成岩（片麻岩）類を主な母材とするもの
柿平統	領家変成岩（片麻岩）類を主な母材とするもの
黒川2統	深成岩（変ハンレイ岩）類を主な母材とするもの
桜平統	花崗岩類を主な母材とするもの
離山統	花崗岩類を主な母材とするもの

村積山 2 統

足助図幅に続く村積山 1 統の分布域に出現する主に 10 YR の色相を有する褐色森林土である。主に矢作川以東の北面中腹以下に出現し、その他では沢沿に点在するのみである。土性は壤土、砂質壤土であるが、広い尾根上から斜面上部では埴質壤土が出現する場合が少なくない。林木の生長はやや良好で、スギ、ヒノキ林で占められる。地質が軟弱なため施業には注意を要する。

代表断面

(地点番号 ⑩)

位 置 東加茂郡足助町小町
海 抜 高 200 m 傾斜 25° 方向 N15°E
地 質 ・ 地 形 新期花崗岩類

東西に走る尾根の北面中腹やや凹状斜面

母材・堆積様式 角閃石黒雲母花崗閃緑岩 走行土

林 況 高木層は樹高 16 ~ 18 m、6 齢級のスギ人工林で、亜高木層はヒノキ、マダケ、オオツツラフジが点在し、低木層はアオキが優占し、ヒサカキ、アラカン、ヤブツバキが混じる。草本層はジャノヒゲ、ヤブラン、フユイチゴ、イヌガヤ、テイカカズラが散在する。

断 面 状 態 L : 3 ~ 4 cm スギと広葉樹の葉と枝がやや密に堆積
F : 2 ~ 3 cm 中庸に堆積
H : 少々

層位	厚さ cm	層界	土性	礫	土色	腐植	構造	粗密度	粘り	水湿	根		備考
											草本	木本	
A ₁	8~12	判然明瞭明瞭漸変	埴質壤土	細角礫含む	黒 褐 (10YR ² / ₂)	すこぶる含む	粒状塊状堅果状	中	強	半乾	なし	小根含む 中根あり	
A ₂	15~18		埴質壤土	細角礫あり	暗 褐 (10YR ³ / ₃)	含む	塊状	やや密	中	半乾	なし	小根含む	
B ₁	5~9		壤土	細角礫あり	明 黄 褐 (10YR ⁶ / ₆)	乏し	塊状	中	弱	半乾	なし	小根あり	
B ₂	20~25		埴質壤土	細角礫あり	にぶい黄褐 (10YR ⁶ / ₄)	乏し	壁状	やや密	中	半乾	なし	小中根あり	
C	50+				レキ土				密		半乾	なし	小中根あり

瀬戸 2 統

瀬戸図幅に続く小原花崗岩域に出現する主に 10 YR の色相を有する褐色森林土である。赤褐系の影響をうけた山腹斜面には 7.5 YR の色相を有する土壌も見られる。沢沿にはグラ化土壌が認められる。土性は埴質壤土、壤土、砂質壤土であるが一般的に粘土の含有量が高い。このため、他の花崗岩域に比べスギ、ヒノキの生長は良く、人工林率も比較的高い。

代表断面

(地点番号 ①)

位 置 西加茂郡小原村梅ヶ洞
 海 抜 高 570 m 傾斜 38° 方向 N85°E
 地 質 ・ 地 形 新期花崗岩類

南北に走る小尾根の中腹平行急斜面
 母材・堆積様式 角閃石黒雲母花崗閃緑岩(小原花崗岩) 歩行土
 林 況 高木層は樹高 15 m、6 齡級のコナラ、モンゴリナラにヤマザクラ、ホウノキ、コシアブラなどを混交し、亜高木層はシラカシ、ヤマザクラ、ヤマウルシを、低木層はシロモジにヒサカキ、コバノミツバツツジを混える。草本層はミヤコザサが優占し、イヌツゲなどが混じる。

断 面 状 態 L: 3~5 cm 広葉樹の葉と枝が密に堆積
 F: 少々
 H: なし

層位	厚さ cm	層界	土性	礫	土色	腐植	構造	粗密度	粘り	水湿	根		備考
											草本	木本	
A ₁	8~10	判然 漸変	埴質壤土	細角礫あり	暗 褐 (10YR 3/3)	富む	塊状 粒状 弱い 堅果 込	やや密	中	湿	なし	小中根 含む	
A ₂	20~22		壤土	細角礫あり	褐 (10YR 4/4)	含む	塊状 弱い 堅果 込	やや密	中	湿	なし	小中根 含む	
AB	15~20		壤土	細角礫あり	褐 (10YR 4/5)	乏し	塊状	中	中	湿	なし	小根含む	
B	15~20		砂質壤土	細角礫あり	黄 褐 (10YR 5/5)	乏し	壁状	中	弱	湿	なし	小中根 あり	
BC	35+		砂質壤土	細角礫あり	にぶい黄褐 (10YR 5.5/4)	乏し	なし	中	弱	湿	なし	小大根 あり	

御内蔵連続

足助図幅に続く新期花崗岩類を母材とする褐色森林土である。小起伏が連続する丘陵状の地形をなし、中腹以下は10YRの色相を、広い尾根上は7.5 YRの色相を有する土壌が出現することが多いが、図示するまでに至らない。7.5 YRの色相の土壌は乾性な土壌となることが多い。林木の生長は比較的良好で中腹以下はスギが多く尾根筋はヒノキ林が多数を占める。

代表断面 (地点番号 ⑫)

位 置 東加茂郡旭町井戸洞

海 抜 高 500m 傾斜 32° 方向 N1°E

地 質 ・ 地 形 新期花崗岩類

東西に走る尾根の北面尾根に近い平行やや急斜面

母材・堆積様式 角閃石黒雲母花崗閃緑岩 歩行土

林 況 高木層は標高10m、4齢級のヒノキにヤマザクラ、アカシデなどを混交し、亜高木層はマダケが混じり、低木層はシラカシが点在する。草本層はミヤコザサ、コアジサイ、ゼンマイ、イヌツゲなどが生える。

断 面 状 態 L : 2~3cm ヒノキと広葉樹の葉と枝がやや密に堆積

F : 1cm 密に堆積

H : 1cm 密に堆積

層位	厚さ cm	層界	土性	礫	土色	腐植	構造	粗密度	粘り	水湿	根		備考
											草本	木本	
A	40	渐变	壤土	細角礫あり	暗褐 (10YR ^{3/3})	富む	粒状	粗	中	半乾	なし	小中根 富む	
B	50		砂質壤土	細角礫あり	黄褐 (10YR ^{5/6})	乏し	塊状	中	弱	半乾	なし	小中根 あり	
C	10+	渐变											

大多賀 2 統

足助図幅に続く稲武町、旭町、設楽町に出現する 10YR の色相を有する褐色森林土である。比較的急峻な地形が多く、中腹以下では物理性良好な土壤を形成する。土性は壤土、砂質壤土で、林木の生長は比較的良好である。なお図示されていないが沢沿いには湿性土壤がみられる。スギ、ヒノキ林が大部分を占め、生長は比較的良好である。

代表断面

(地点番号 ⑬)

位 置 北設楽郡稲武町横川サンガ坂林道沿
 海 抜 高 820m 傾斜 35° 方向 S35°W
 地 質 ・ 地 形 新期花崗岩類
 南西に延びる小尾根山脚部やや凸状急斜面
 母材・堆積様式 両雲母花崗岩(武節花崗岩) 歩行土
 林 況 高木層は樹高18~20m、8年齢のスギ人工林で、低木層はシロモジにエンコウカエデ、アワブキなどが混じり、草本層はタマアジサイにスズ、ムラサキシキブ、シロモジが混じる。
 断 面 状 態 L: 1~5cm スギの葉と枝が粗に堆積
 F: 少々
 H: なし

層位	厚さ cm	層界	土性	礫	土色	腐植	構造	粗密度	粘り	水湿	根		備考
											草本	木本	
A ₁	9~10	漸変	壤土	なし	黒 褐 (10YR 2½)	すこぶる 富む	団粒状	粗	中	湿	なし	小根富む	
A ₂	14~16		砂質壤土	細角礫あり	暗 褐 (10YR 3⅓)	富む	塊状	やや粗	弱	湿	なし	小中根含む	
B	13~16	漸変	砂土	細角礫あり 小角礫あり	にぶい黄褐 (10YR 5¼)	乏し	なし	中	零	湿	なし	小根あり	
C	60+		砂土	レキ土	にぶい黄橙 (10YR 6⅓)	乏し	なし	中	零	やや湿	なし	小根あり	

立野 2 統

主に北設楽郡の伊奈川花崗岩に出現する 10 YR の色相を有する褐色森林土である。土性は埴質壤土、壤土、砂質壤土である。緩斜面地形のややつまった土壌と急峻な地形の物理性の良好な土壌が出現する。

なお図示されていないが沢沿には湿性土壌もみられる。スギ、ヒノキの人工林が大部分を占め生長は良好である。

代表断面

(地点番号 ⑭) その 1 (ややつまった土壌)

位 置

北設楽郡設楽町西納庫岩伏山麓

海 抜 高

800 m 傾斜 23° 方向 N72°W

地 質 ・ 地 形

新期花崗岩類

沢沿いやや凸状やや緩斜面

母材・堆積様式

角閃石黒雲母花崗閃緑岩(伊奈川花崗岩)崩積土

林 況

高木層は樹高 20 m、10 齢級のスギ、ヒノキ人工林、低木

層はシロモジ、ウラジロガシが散在し、草本層はスズ、クル

マバハグマ、ショウジョウバカマ、オクモミジハグマが散在する。

断 面 状 態

L: 1~3 cm スギ、ヒノキの葉と枝が中庸に堆積

F: 2 cm 密に堆積

H: 1~2 cm 密に堆積

層位	厚さ cm	層界	土性	礫	土色	腐植	構造	粗密度	粘り	水湿	根		備考
											草本	木本	
A ₁	8~10	判然 漸変 漸変	埴質壤土	細角礫あり	黒褐 (10YR 2/3)	富む	団粒状塊状	粗	強	やや湿	なし	小根富む 中根含む	
A ₂	15~17		埴質壤土	細角礫あり	暗褐 (10YR 3/3)	富む	堅果状	中	強	やや湿	なし	小中根含む	
B	35		壤土	細角礫含む	褐 (10YR 4/6)	乏し	堅果状	やや粗	強	やや湿	なし	小中根あり	
BC	40+		砂質壤土	細角礫富む	にぶい黄褐 (10YR 5/5)	乏し	壁状	中	弱	やや湿	なし	小根あり	

代表断面 (地点番号 ⑮) その2

位 置 北設楽郡稲武町峰山立野山
 海 抜 高 720m 傾斜 28° 方向 N22°W
 地 質 ・ 地 形 新期花崗岩類
 沢沿い平行斜面
 母材・堆積様式 角閃石黒雲母花崗閃緑岩(伊奈川花崗岩)崩積土
 林 況 高木層は樹高15m、6齢級のスギ人工林、草本層はウツキ、ムラサキシキブにミヤコザサ、ゼンマイ、ダンコウバイ、トリアシソウマなどが混じる。
 断 面 状 態 L: 1~4cm スギの葉と枝が粗に堆積
 F: 少々
 H: なし

層位	厚さ cm	層界	土性	礫	土色	腐植	構造	粗密度	粘り	水湿	根		備考
											草本	木本	
A ₁	15~16	漸変	埴質壤土	細角礫含む	黒 褐 (10YR 2/2)	すこぶる富む	団粒状	粗	中	湿	なし	小中根含む	
A ₂	12~15		壤土	細角礫含む	暗 褐 (10YR 3/3)	富む	塊状	中	中	湿	なし	小根あり 中根含む	
B ₁	29~32	漸変	砂質壤土	細角礫含む	褐 (10YR 4/6)	乏し	塊状	中	弱	湿	なし	小中根あり	
B ₂	40+	漸変	砂質壤土	細角礫含む	褐 (10YR 4/5)	乏し	壁状	やや密	弱	湿	なし	小中根あり	

天堤 2 統

田口図幅に続く津具村、豊根村の設楽層群に出現する 10 YR の色相を有する褐色森林土である。土性は埴土、埴質壤土で全般に粘土含有量が高い。このため、物理性はやや不良である。林木の生長は領家変成岩領域に比べやや劣る。なお、粘土の含有量が多いのでヒノキを造林した場合トックリ症状を呈し材質の低下をきたすので注意を要する。

代表断面

(地点番号 ⑩)

位 置 北設楽郡津具村油戸

海 抜 高 760 m 傾斜 32° 方向 S40°W

地 質 ・ 地 形 新第三紀設楽層群

北西に延びる尾根の下部平行やや急斜面

母材・堆積様式 泥岩、砂岩 歩行土

林 況 高木層は樹高 10 m、3 齡級の若いスギの林分で草本層はヤマジサイ、アブラチャンなどが散見される程度の過密林分。

断 面 状 態 L: 0~1 cm スギの葉、枝が粗に散在

F: 少々

H: なし

層位	厚さ cm	層界	土性	礫	土色	腐植	構造	粗密度	粘り	水湿	根		備考
											草本	木本	
A ₁	8~10	漸変 判然 漸変 判然	埴土	細中角礫 含む 小角礫富む	黒 褐 (10YR 2/3)	富む	団粒状	粗	強	半乾	なし	小根含む 中根あり	
A ₂	20~21		埴土	細中角礫 含む 小角礫富む	黒 褐 (10YR 3/2)	富む	塊状	中	強	半乾	なし	小中根 含む 大根あり	
AB	15~27		埴質 壤土	細小角礫 含む 中角礫富む	褐 (10YR 4/4)	含む	塊状	中	強	半乾	なし	小中根 あり	
B	10~20		埴質 壤土	細小角礫 富む 中角礫含む	黄 褐 (10YR 5/6)	乏し	壁状	やや密	中	半乾	なし	小根あり	
C	35+		埴質 壤土	細角礫含む 小角礫すこ ぶる富む	黄 褐 (10YR 5/8)	乏し	なし	中	中	半乾	なし	小根あり	

萩太郎統

設楽層群中の玄武岩域に出現する10YRの色相を有する褐色林森林土である。図示されていないが北斜面、尾根筋など風当りの強い所は乾性の土壌がみられる。A層は一般に著しく厚く、採草地として使用されていたと思われる。土性は埴土～埴質埴土である。スギ、ヒノキの人工林が大部分を占めるが標高が高いことと埴質な土壌のため生長はあまり良くない。

代表断面 (地点番号 ⑰)

位 置 北設楽郡豊根村萩太郎山
 海 抜 高 1,100m 傾斜 28° 方向 S5°W
 地 質 ・ 地 形 新第三紀設楽層群南北に延びる尾根の中腹斜面
 母材・堆積様式 玄武岩 歩行土
 林 況 高木層は樹高12～13m、5齢級のスギ人工林、草本層はアブラチャン、スズ、ヤマアジサイが点在する過密林分。
 断 面 状 態 L: 2～6cm スギの葉と枝が密に堆積
 F: 少々
 H: なし

層位	厚さ cm	層界	土性	礫	土色	腐植	構造	粗密度	粘り	水湿	根		備考
											草本	木本	
A ₁	15～20	漸変	埴土	細角礫あり	黒 褐 (10YR 2/2)	すこぶる富む	団粒状	粗	強	半乾	なし	小中根 含む 大根あり	
A ₂	25～28		埴土	細角礫あり	暗 褐 (10YR 3/4)	含む	塊状	密	強	半乾	なし	小中根あり	
A ₃	35～40		埴土	小大角礫 含む	黒 褐 (10YR 2/3)	富む	塊状	やや密	強	半乾	なし	小根あり	
B	20		埴土	細角礫富む	褐 (10YR 4/4)	乏し	壁状	中	強	半乾	なし	小根あり	

寧比曾統

足助、田口図幅に続く片状ホルンフェルスを母材とし、伊勢神トンネル、坪崎川流域、西納庫に出現する主に10YRの色相を有する褐色森林土である。土性は埴質壤土、壤土である。地形は全般的に急峻であるが土壤層は厚く肥沃である。スギ、ヒノキの人工林が大部分を占め生長は良好である。

代表断面

(地点番号 ⑱)

位 置 東加茂郡旭町坪崎
 海 抜 高 670m 傾斜 22° 方向 N40°E
 地 質・地 形 領家変成岩類
 尾根に近い平行斜面
 母材・堆積様式 片状ホルンフェルス 歩行土
 林 況 高木層は樹高12~13mのスギ、ヒノキにアカマツを混交し草本層はミヤコザサが優占しヤマウルシ、ホウノキ、クリが混じる。
 断 面 状 態 L: 5cm スギ、ヒノキ、アカマツの葉と枝が密に堆積
 F: 2cm 密に堆積
 H: 1cm 密に堆積

層位	厚さ cm	層界	土性	礫	土色	腐植	構造	粗密度	粘り	水湿	根		備考
											草本	木本	
A ₁	5~8	漸変 判然 漸変	埴質壤土	なし	黒 褐 (10YR ² / ₂)	すこぶる 含む	団粒状 粒状	粗	中	半乾	なし	小根富む 中根あり	
A ₂	15~17		壤土	細角礫含む	褐 (10YR ⁴ / ₄)	含む	塊状	中	中	半乾	なし	小中根 含む	
B	40		壤土	細小角礫 含む	黄 褐 (10YR ⁵ / ₈)	乏し	塊状	中	中	半乾	なし	小中根 あり	
C	38+												

布里統

足助、三河大野、田口図幅から続く領家変成岩（片麻岩）を母材とし、10YRの色相を有する適潤性褐色森林土である。一般に地形は急峻であるため図示されていないが一部の尾根筋には乾性土壌が、沢沿には湿性土壌が出現する。土性は埴質壤土、壤土で物理性は良好である。スギ、ヒノキの人工林が大部分を占め生長は良好である。

代表断面

（地点番号 ①⑨）

位置 北設楽郡津具村東山
 海拔高 910m 傾斜 36° 方向 S55°E
 地質・地形 領家変成岩類
 南北に走る尾根の中腹平行急斜面
 母材・堆積様式 片麻岩 歩行土
 林 況 高木層は17～18mの10齡級ヒノキ人工林で、低木層はスズ、クロモジ、アブラチャン、アワブキが混じり、草本層はコカンスゲが優占しシコアジサイ、シシガンラ等が混じる。
 断面状態 L: 0～1cm ヒノキ、広葉樹の葉と枝が粗に堆積
 F: 2cm 密に堆積
 H: 1cm 密に堆積

層位	厚さ cm	層界	土性	礫	土色	腐植	構造	粗密度	粘り	水湿	根		備考
											草本	木本	
A ₁	12～13	漸変	埴質壤土	細角礫あり	黒 褐 (10YR 3/2)	富む	団粒状	粗	強	湿	小根含む	小根富む 中根含む	
A ₂	10		埴質壤土	細角礫あり 小中角礫含む	にぶい黄褐 (10YR 4/3)	含む	塊状	やや粗	強	湿	なし	小中根含む	
B ₁	22～24		壤土	細角礫含む 小中角礫富む	黄 褐 (10YR 5/8)	乏し	塊状	中	中	湿	なし	小根あり	
B ₂	30+		壤土	小中角礫 礫土	黄 褐 (10YR 5/6)	乏し	なし	中	中	湿	なし	小根あり	

白鳥山統

田口図幅に続く豊根村南部～中部に出現する10YRの色相を有する褐色森林土である。図示されていないが沢沿には湿性土壌が、尾根筋には乾性土壌が部分的に出現する。土性は埴土から壤土で、尾根筋は粘土含有量が多くなる。中腹以下は物理性が良いため、スギ林が大部分をしめ生長は良好である。

代表断面 (地点番号 ㊶)

位置 北設楽郡豊根村猪古里
 海拔高 830m 傾斜 34° 方向 S64°E
 地質・地形 領家変成岩類
 東西に走る小尾根南面下部平行急斜面
 母材・堆積様式 片麻岩 歩行土
 林況 高木層は20～25mの10齡級スギ人工林で、草本層はヤマジサイが優占し、モミジイチゴ、コアシサイ、アブラチャン、サンカクヅルが混じる。
 断面状態 L: 3～5cm スギの葉と枝が中庸に堆積
 F: 0～1cm 中庸に堆積
 H: なし

層位	厚さ cm	層界	土性	礫	土色	腐植	構造	粗密度	粘り	水湿	根		備考
											草本	木本	
A ₁	9～12	漸変 漸変 漸変	壤土	細角礫あり 小角礫含む	黒褐色 (10YR ² / ₂)	すこぶる 富む	団粒状	粗	中	湿	小根あり	小根含む	
A ₂	13～14		壤土	細中角礫 含む 小角礫あり	黒褐色 (10YR ³ / ₂)	富む	塊状	やや粗	中	湿	なし	小根含む 中根あり	
B ₁	21～25		壤土	細小大角礫 含む 中角礫富む	褐色 (10YR ⁴ / ₅)	乏し	塊状	やや粗	強	湿	なし	小中根あり	
B ₂	55+		壤土	細角礫含む 小角礫富む 中角礫 すこぶる 富む	褐色 (10YR ⁴ / ₄)	乏し	なし	中	中	湿	なし	小中根あり	

柿平統

田口、佐久間図幅に続く豊根、富山村に出現する10YRの色相を有する褐色森林土である。図示されていないが富山村の天竜川沿は特に急峻で土壌層も薄く、広葉樹の所も少なくない。その他はA層は比較的厚く、土性は埴質壤土から壤土で物理性は良い。スギ、ヒノキの生長は良好である。

代表断面 (地点番号 ㉔)

位 置 北設楽郡富山村大沼
 海 抜 高 730m 傾斜 28° 方向 S10°W
 地 質 ・ 地 形 領家変成岩類
 東西に走る尾根の中腹平行斜面
 母材・堆積様式 片麻岩 歩行土
 林 況 高木層は9~10mの3齢級スギ人工林、草本層はアブラチャン、イヌガヤ、コガクウツギ、チヂミザサ、コナラ、ヤマジオウが混じる。
 断 面 状 態 L: 0~3cm スギの葉と枝が疎に堆積
 F: 少々
 H: なし

層位	厚さ cm	層界	土性	礫	土色	腐植	構造	粗密度	粘り	水湿	根		備考
											草本	木本	
A ₁	17~19	漸変	埴質壤土	細角礫含む 小角礫含む	黒 褐 (10YR ³ / ₂)	富む	団粒状	粗	強	湿	小根あり	小根含む 中根含む	
A ₂	26~28		埴質壤土	細角礫含む 小角礫含む	暗 褐 (10YR ³ / ₃)	富む	塊状	やや粗	強	湿	なし	小根含む 中大根あり	
B	55+		壤土	小中大角礫 レキ土	褐 (10YR ⁴ / ₆)	乏し	塊状	中	中	湿	なし	小中根あり	

黒川2統

田口図幅に続く豊根村と稲武町、旭町の一部の塩基性岩に10YRの色相を有する褐色森林土である。図示されていないが沢沿には湿性土壌が見られる。土性は埴質壤土、壤土で下層位は砂質壤土となる。A層は一般的に厚く、物理性も良好である。スギ、ヒノキの人工林が殆んどを占め、特に豊根村では林木の生長が非常に良好である。

代表断面

(地点番号 ㉔)

位置 北設楽郡豊根村坂場
 海拔高 820m 傾斜 38° 方向 N70°W
 地質・地形 深成岩類

東西に走る小尾根の中腹平行急斜面

母材・堆積様式
 林 況

変斑粘岩 歩行土

高木層は樹高30～35m、14齢級のスギ人工林で草本層はヤマアジサイ、スズ、モミジイチゴ、アブラチャン、ダンコウバイ、クジャクシダが混じる。

断面状態

L: 3～5cm スギの葉と枝がやや密に堆積

F: 0～1cm 粗に堆積

H: なし

層位	厚さ cm	層界	土性	礫	土色	腐植	構造	粗密度	粘り	水湿	根		備考
											草本	木本	
A ₁	6～10	漸変 漸変 漸変 漸変	埴質壤土	細角礫あり	黒褐 (10YR ² / ₃)	富む	団粒状	粗	強	半乾	小根あり	小根含む 中根あり	
A ₂	8～14		埴質壤土	細小角礫あり	暗褐 (10YR ³ / ₃)	富む	塊状	中	強	半乾	なし	小中根あり	
A ₃	7～15		壤土	細小角礫あり	褐 (10YR ⁴ / ₄)	含む	塊状	中	強	半乾	なし	小中根あり	
B	17～29		壤土	細小角礫含む	黄褐 (10YR ⁵ / ₆)	乏し	なし	中	中	半乾	なし	小根あり	
BC	35+		砂質壤土	なし	にぶい黄褐 (10YR ⁵ / ₄)	乏し	なし	中	零	半乾	なし	小根あり	

桜平統

田口、佐久間図幅に続く領家帯内花崗岩類中に出現する10YRの色相を有する褐色森林土である。豊根村の北部に点在する。土性は埴質壤土、壤土、砂質壤土である。図示されていないが沢筋には湿性土壌が見られる。林木の生長は良好で、ほとんどがスギ、ヒノキの人工林になっている。

代表断面 (地点番号 ㉓)

位 置 北設楽郡豊根村奥山
 海 抜 高 1,060m 傾斜 30° 方向 N10°W
 地 質 ・ 地 形 古期花崗岩類
 東西に走る小尾根の中腹平行斜面
 母材・堆積様式 角閃石黒雲母花崗閃緑岩(神原石英閃緑岩)歩行土
 林 況 高木層は樹高17~18m、10齡級のヒノキ林で下部はスギとなる。草本層はヤマアジサイ、クロモジ、モミジイチゴにスズ、コアジサイ、ノリウツギなどが混じる。
 断 面 状 態 L: 0~5cm スギ、ヒノキ、広葉樹の葉と枝が粗に堆積
 F: 少々
 H: なし

層位	厚さ cm	層界	土性	礫	土色	腐植	構造	粗密度	粘り	水湿	根		備考
											草本	木本	
A ₁	14~15	漸変	埴質壤土	小角礫あり	暗 褐 (10YR ³ / ₃)	富む	団粒状	粗	強	湿	小根あり	小中根含む	
A ₂	20~21		埴質壤土	細角礫あり 大角礫含む	暗 褐 (10YR ³ / ₄)	含む	塊状	やや粗	強	湿	なし	小根含む 中大根あり	
B	35		埴質壤土	細小角礫あり 中角礫含む	褐 (10YR ⁴ / ₆)	乏し	塊状	やや粗	強	湿	なし	小中根あり	
BC	30+		砂質壤土	小角礫含む 中角礫すこぶる 富む	黄 褐 (10YR ⁵ / ₆)	乏し	なし	中	弱	湿	なし	小根あり	

離山統

佐久間図幅に続く富山村の天竜川沿に出現する10YRの色相を有する褐色森林土である。地形は一般に急峻で図示されていないが、沢沿は湿性土壌が、尾根筋は乾性土壌が見られる。土性は壤土、砂質壤土で物理は良い。林木の生長は良好であるが岩地、急峻な地も多いため広葉樹も残されている。

代表断面

(地点番号 ㉔)

位 置 北設楽郡富山村横林

海 抜 高 350m 傾斜 37° 方向 N22°W

地 質 ・ 地 形 古期花崗岩類

北東にのびる尾根の北西中腹上部平行斜面

母材・堆積様式 角閃石黒雲母花崗閃緑岩(天竜峡花崗岩) 歩行土

林 況 高木層は樹高10m、5齡級のヒノキ人工林で草本層はテйкаカズラ、チゴユリ、マルバウツギ、ヤブムラサキ、アラカシ、アキハギクが混じる。

断 面 状 態 L: 2cm スギ、ヒノキ、アカマツ、広葉樹の葉と枝がやや粗に堆積

F: 1~2cm 中庸に堆積

H: なし

層位	厚さ cm	層界	土性	礫	土色	腐植	構造	粗密度	粘り	水湿	根		備考
											草本	木本	
A ₁	6~10	判然 漸変	壤土	細角礫すこぶる富む 小角礫含む	黒 褐 (10YR ^{3/2})	富む	団粒状 粒状	粗	弱	やや乾	小根あり	小根すこぶる富む 中根含む	
A ₂	19~25		壤土	細角礫富む 小角礫含む	暗 褐 (10YR ^{3/3})	富む	粒状 堅果状	やや密	中	半乾	なし	小根富む 中根あり	
A ₃	5~20		砂質壤土	細角礫富む 小角礫富む	灰 黄 褐 (10YR ^{4/2})	含む	粒状	やや粗	零	半乾	なし	小根含む 中根あり	
CR	60+		レキ土										

2.1.4 褐色森林土壌（赤褐色系）

この土壌統群は富山村の天竜川段丘面に出現する5YRの色相を有する土壌である。

佐 太 統 花崗岩類を主な母材とするもの

佐太統

富山村の天竜川沿の比較的緩斜面の段丘面(?)に小面積出現する5 YR~7.5 YRの色相を有する赤褐色の褐色森林土である。古期に生成された土壌と思われ局所的にしか出現しない。図示されていないが尾根筋には乾性土壌が見られる。中腹以下の斜面のスギの生育は比較的良好である。

代表断面

(地点番号 ㊸)

位 置 北設楽郡富山村佐太
 海 抜 高 300m 傾斜 28° 方向 S40°E
 地 質 ・ 地 形 古期花崗岩類
 東西に延びる尾根の南面中腹凹状斜面
 母材・堆積様式 角閃石黒雲母花崗閃緑岩(天竜峡花崗岩) 歩行土
 林 況 高木層は樹高15~17m、7年齢のスギ人工林、草本層はドクダミ、シオデ、アラカシ、チヂミザサ、ヒサカキなどが混じる。
 断 面 状 態 L: 3~5cm スギの葉と枝が粗に堆積
 F: 0~1cm 中庸に堆積
 H: 少々

層位	厚さ cm	層界	土性	礫	土色	腐植	構造	粗密度	粘り	水湿	根		備考
											草本	木本	
A ₁	10~13	漸変 判然	埴土	細角礫富む 小中角礫含む	暗赤褐 (5YR 3/3)	富む	粒状 堅果状	密	強	湿	小根あり	小根富む 中根あり	
A ₂	15		埴土	細角礫含む	にぶい赤褐 (5YR 4/4)	含む	堅果状	中	強	湿	なし	小中根含む	
B	20		埴土	小中角礫富む 大角礫すこぶる富む	赤褐 (5YR 4/6)	乏し	壁状	中	強	湿	なし	小根あり	
CR	+	漸変		レキ土							なし		

2.1.5 黒色土壌

この土壌統群は中央部の高原状地形の主に尾根筋に局所的に出現する土壌である。
母材の違いにより次の3の土壌統に区分した。

- | | |
|-------|----------------------|
| 天狗棚 統 | 設楽層群（玄武岩）類を主な母材とするもの |
| 折元 統 | 花崗岩類を主な母材とするもの |
| 黒田 統 | 花崗岩類を主な母材とするもの |

天狗棚統

長野県境に近い設楽層群玄武岩を母材とするやや緩斜面から平坦面の山脚部、尾根筋に出現する黒色土壌である。応時の採草地と考えられる。A層は著しく厚く100cmを越える所もある。粘土含有量の多い重埴土である。当域にヒノキを植栽した場合著しいトックリ症状を呈するので樹種の選定には注意を要する。

代表断面

(地点番号 ㊸)

位置 北設楽郡津具村天狗棚
 海拔高 1,080m 傾斜 22° 方向 N40°E
 地質・地形 新第三紀設楽層群
 東西に連らなる尾根の北面上部平行斜面
 母材・堆積様式 玄武岩 残積土
 林況 高木層は9~10mの7齢級ヒノキ人工林にクリ、ウラジロモミ、ミズナラを混交、亜高木層はブナ、ハウノキ、ヒノキを混交、低木層はスズ、ムシカリ、草本層はゼンマイ、ツルシキミが混じる。
 断面状態 L: 5~8cm ヒノキ、広葉樹、スズの葉と枝が密に堆積
 F: 1~2cm 密に堆積
 H: なし

層位	厚さ cm	層界	土性	礫	土色	腐植	構造	粗密度	粘り	水湿	根		備考
											草本	木本	
A ₁	20	漸変 漸変 漸変	埴土	なし	黒 (7.5YR ² / ₁)	すこぶる富む	団粒状粒状	粗	強	やや湿	小根あり	小根富む 中根含む	
A ₂	23		埴土	なし	黒 褐 (7.5YR ³ / ₂)	富む	堅果状	やや密	強	やや湿	なし	小中根あり	
A ₃	28		埴土	なし	黒 褐 (7.5YR ² / ₂)	すこぶる富む	堅果状	やや密	強	やや湿	なし	小中根あり	
B	30+		埴土	中角礫含む	褐 (10YR ⁴ / ₅)	乏し	壁状	やや密	強	やや湿	なし	小根あり	

折元統

稲武町、津具村の主稜線に近い平坦面から緩斜面に出現する黒色土である。A層は50～70cmと非常に厚い。土性は埴土で、粘土含有量がたいへん高い。高所ではカラマツ、低いところではスギ、ヒノキが造林されているが生長は良くない。特に、ヒノキの造林はトックリ症状が出るので注意を要する。

代表断面 (地点番号 ㉞)

位 置 北設楽郡津具村折元
 海 抜 高 1,000m 傾斜 20° 方向 S35°E
 地 質・地 形 新期花崗岩類
 東西に連らなる広い尾根の南面やや緩斜面
 母材・堆積様式 角閃石黒雲母花崗閃緑岩(伊奈川花崗岩) 残積土
 林 況 高木層は樹高12m、7齡級のヒノキ人工林、草本層はアオハダ、リョウブ、ミツバツツジ、タンナサワフタギが点在する。
 断 面 状 態 L: ヒノキの葉と枝が粗に散在
 F: 1～2cm 密に堆積
 H: 0～1cm 密に堆積

層位	厚さ cm	層界	土性	礫	土色	腐植	構造	粗密度	粘り	水湿	根		備考
											草本	木本	
A ₁	9～10	漸変 漸変 漸変 明係	埴土	なし	黒 (7.5YR ² / ₁)	すこぶる富む	団粒状粒状	粗	強	湿	なし	小根すこぶる富む 中根あり	
A ₂	17～18		埴土	なし	黒 (7.5YR ² / ₁)	すこぶる富む	堅果状	中	強	湿	なし	小根含む 中根あり	
A ₃	18		埴土	なし	黒 褐 (7.5YR ³ / ₂)	富む	堅果状	やや密	強	湿	なし	小根あり 大根含む	
A ₄	20～21		埴土	なし	黒 褐 (7.5YR ² / ₂)	すこぶる富む	堅果状	やや密	強	湿	なし	小中根あり	
B	35+		埴質壤土	小角礫あり	黄 褐 (10YR ⁵ / ₆)	乏し	壁状	密	強	湿	なし	小根あり	

黒田統

稲武町の段戸山塊、野入などの武節花崗岩域に出現する黒色土である。尾根筋、山脚部に見られ、採草地として近年まで使用されていた所と思われる。A層は著しく厚く50～100cmにおよび、ややつまった土壌となる。当土壌統にヒノキを造林すると顕著なトックリ症状があらわれるので注意を要する。

代表断面 (地点番号 ㊸)

位置 北設楽郡稲武町黒田
 海拔高 740m 傾斜 23° 方向 S35°E
 地質・地形 新期花崗岩類
 北東に延びる尾根の中腹やや凹状斜面
 母材・堆積様式 両雲母花崗岩(武節花崗岩) 歩行土
 林況 高木層は樹高15～17m、5齡級のスギ人工林、草本層はシロモジ、モミジイチゴ、ゼンマイ、コアジサイなどが点在する過密林分
 断面状態 L: 3～6cm スギの葉と枝がやや密に堆積
 F: 2cm 密に堆積
 H: 1cm 密に堆積

層位	厚さ cm	層界	土性	礫	土色	腐植	構造	粗密度	粘り	水湿	根		備考
											草本	木本	
A ₁	20～22	判然 漸変 漸変 判然	埴質壤土	細角礫含む	黒 (7.5YR ^{1.7} ₁)	すこぶる富む	団粒状塊状	粗	強	湿	なし	小根富む 中根あり	
A ₂	16～18		埴質壤土	細角礫あり	暗褐 (10YR ³ ₃)	富む	塊状	中	強	湿	なし	小中根あり	
A ₃	22		壤土	細角礫あり	黒褐 (10YR ² ₃)	富む	塊状	やや密	中	湿	なし	小中根あり	
AB	35		壤土	細角礫含む	褐 (10YR ⁴ ₄)	含む	塊状	中	中	湿	なし	小根あり	
B	10+		壤土	細角礫あり	黄褐 (10YR ⁵ ₆)	乏し	壁状	やや密	中	湿	なし	小根あり	

2.2 台地及び低地域の土壌（農地土壌）

明智図幅、根羽・満島図幅に分布する土壌統の種類とその性格を述べれば以下のとおりである。なお、土壌統一覧をP 89に示した。

厚層黒ボク土壌

1) 野田統

山間地域の丘陵緩斜面に分布する。腐植含量は5～10%で黒ボク層の厚さが1 m以上ある。土性は壤質で、表土の礫含量は5～10%とやや多い。保肥力は2.3 meと本県土壌としては高い。りん酸吸収係数も1,500以上である。

ゴボウ、サトイモ、コンニャク畑として利用されている。

表層腐植質黒ボク土壌

1) 上原統

花崗岩を母岩とする山麓の低斜面に分布する。腐植層の厚さは表層50 cm程度である。

保肥力は29.8 meと高く、りん酸吸収係数も1,500程度である。傾斜地で礫含量が多いので、根菜類の栽培は不適當である。コンニャク、サトイモ、花木が栽培されている。塩基置換容量は大きい。塩基は溶脱しやすく強酸性になりやすい土壌である。

2) 高雄統

本図幅では津具村中央部に小面積分布する。

腐植層の厚さは表層50 cm内外で、土性は粘質なものが多い。作土は25 cm以上、有効土層は1 mで深い。保肥力は20 me程度である。表層のりん酸吸収係数は1,000、下層は1,500と大きい。塩基が溶脱しやすく、飽和度が低下して酸性に傾きやすい土壌である。野菜類の畑として利用されている。

多湿黒ボク土壌

3) 平田統

本図幅では津具村北西部の河岸段丘上に分布する。腐植に富む粘質土壌である。黒ボク層の厚さはおおむね表層50cm以内であるが、第1層が黒ボク土でない場合もある。水田として利用されている。

褐色森林土壌

1) 幡豆統

西三河中山間地域の花崗岩山地に分布する。周辺の類似する土壌統に柏原統があるが堆積様式が崩積である点で異なる。

土性はおおむね壤質で、表土の厚さは25cm以上で深い。傾斜が急で礫含量も多いため、野菜には不適當である。

2) 柏原統

花崗岩山地に分布し、黄褐色を呈する壤～粘質土壌である。表土の礫含量は5～10%でやや多く、表土の厚さも15～20cmでやや薄い。

保肥力は中程度で、加里、りん酸は多いが、苦土が少ない。傾斜地であるため浸食の危険性がある。山麓低斜面では野菜類、コンニャク等が栽培されており、高地では大規模な採草放牧地として利用されている。

3) 井田統

花崗岩山地に分布する黄褐色を呈する砂質土壌である。表土の厚さが15～25cmでやや薄く、保水性も小さいため過干のおそれがある。

苦土、加里が少なく塩基含量のバランスも悪い。普通畑、樹園地(モモ、ウメ)、花き畑として利用されているが、三国山麓の池ノ平には大規模な放牧地もある。

4) 師崎統

第三紀固結堆積岩山地に分布する黄褐色を呈する粘質土壌である。保肥力は

23.9me、りん酸吸収係数も1,000以上と大きい。表土の礫含量は20～50%で頗る多い。傾斜地であるため、浸食のおそれがある。本図幅では豊根村の一部に分布するにすぎない。

粗粒灰色台地土壌

1) 野口統

豊根村の変成岩山麓に分布する灰褐色を呈する土壌である。土性はおおむね壤質で、表土の礫含量は5～10%でやや多い。保肥力は小～中程度で有機含量は少ない。石灰、苦土もやや少ない。主に桑園として利用されている。

黄色土壌

1) 保永統

黄褐色を呈する壤質～粘質な土壌である。保肥力は小～中程度で60cm以下に斑紋がある。

耕耘はやや困難であり、透水性も大きい等下層土の理化学性は概してよくない。本図幅では設楽町の一部に分布する。水田として利用されている。

2) 一本木統

本図幅では津具村北部の山ろく低斜面及び河岸段丘上に分布する。黄褐色を呈し、土性は壤質で礫含量も多い。透水性が大きく要求水量は多いので塩基類、けい酸等が溶脱しやすい。山間部における洪積、残積の主要土壌統である。

3) 下黒川統

丘陵間の開析谷に分布し、表層が腐植に富む壤質土壌である。本図幅では豊根村と一部津具村に分布する。本地域の水田土壌は礫に富み、糸根、膜状の酸化沈積物を有し、土色も明るいものが多い。

湛水、透水性が大きく水温も低いため夏期の湛水中も土壌の還元化は弱い。

4) 平岩統

主として山ろく低斜面に沿って分布し、山間部における洪積、残積の主要土壌統である。

土性はおおむね壤質で、表層より礫を含む。

保肥力は中程度で、りん酸吸収係数は1,000以上の比較的高い土壌もある。下層に黄褐色を呈する花崗岩の腐朽礫をもち透水性が大きい。水田として利用されている。

5) 宮迫統

三河山間地域内の変成岩地帯の山ろく斜面に分布する。土性は壤～粘質で、表層は黒～灰褐で腐植に富む。礫含量も10～20%が多い。

保肥力は23.2meと県内土壌のうちでは比較的大きい。りん酸吸収係数も1,040と大きい。

主として茶、桑等の樹園地となっているが、傾斜地であるため浸食のおそれがある。

灰色低地土壌

1) 針曽根統

河川の流域に広く分布する中粗粒の代表的土壌統である。土性は壤質で礫は少ない。80～100cmにグライ層の出現するものもある。

保肥力は7.7meと小さい。透水性がやや大きいため要求水量も比較的多い。根系障害は少ないが中干しは徹底する必要がある。

2) 深津統

主として沖積平坦地に分布するが、本図幅では丘陵地又は台地の谷間に分布している。

針曽根統に類似するが土色の点で区別される。灰褐色を呈する壤質土壌であり、保肥力は8.5meと小さい。透水性が大きく、要求水量が多い。

粗粒灰色低地土壌

1) 鶉多須統

本図幅では矢作川に沿った河川敷の狭い平坦地に点在する砂質土壌である。有機物含量は少なく保肥力も小さい。表土の厚さは25 cm以上で深く、礫含量も少ないが、保水性が小さいため過干のおそれ大きい。畑として利用されている。

グライ土壌

1) 寺津統

山間低地に分布し、作土あるいは作土直下からグライを呈する。このため還元障害と、一時的な豪雨により冠水のおそれがある。

土性は表層が壤質、下層は壤～粘質となっている。保肥力は中程度である。

2) 開正統

中粗粒の代表的土壌統である。本図幅では山間谷間の平坦部に沿って広く分布する。土性はおおむね壤質で40～80 cm以下にグライ層をもつグライ土壌である。

保肥力は10.9 meとやや小さく、肥効の持続性も劣る。寺津統と同様還元障害と冠水のおそれがある。

表 土 壤 統 一 覧 表

土 壤 群	土 壤 統 群	土 壤 統	土 色	腐 植 層	礫 層	土 性		グライ層	堆積様式	母 材	地 目	備 考	
						表 層	次 層						
黒 ボ ク 土	厚 層 黒 ボ ク 土 壤	野 田	黒	全層腐植層	なし	壤 質	壤 質	なし	洪積	非固結堆積岩	畑		
	表層腐植質黒ボク土壤	上 原	灰褐～黄褐	表層腐植層	〃	壤～粘質	砂～壤質	〃	残積	固結火成岩	〃		
		高 雄	黒～黄褐	〃	〃	〃	壤～強粘質	壤～強粘質	〃	洪積	非固結堆積岩	〃	
	多 湿 黒 ボ ク 土 壤	平 田	黒～黄褐	〃	〃	壤～粘質	壤～粘質	〃	〃	〃	水田	斑鉄あり	
褐色森林土	褐色森林土壤	幡 豆	灰褐～黄褐	なし	〃	壤 質	壤～粘質	〃	崩積	固結火成岩	畑		
		柏 原	黄 褐	〃	〃	壤～粘質	壤～粘質	〃	残積	〃	〃		
		井 田	黄褐～灰褐	〃	〃	砂 質	砂 質	〃	〃	固結火成岩(花崗岩)	〃		
		師 崎	灰 褐	〃	15～40cm以下あり	壤～粘質	壤～粘質	〃	〃	固結堆積岩(頁岩)	〃		
灰色台地土	粗粒灰色台地土壤	野 口	灰 褐	〃	なし	壤 質	壤 質	〃	崩積	変 成 岩	〃		
赤黄色土	黄 色 土 壤	保 永	灰褐～黄褐	〃	〃	壤 質	壤 質	〃	水積残積	非固結堆積岩固結火成岩	水田	斑鉄あり	
		一本木	黄 褐	〃	〃	壤 質	壤 質	〃	洪積	非固結堆積岩	〃	〃	
		下黒川	灰褐～黄褐	表層腐植層	〃	〃	壤 質	壤 質	〃	水積残積	非固結堆積岩固結火成岩	〃	〃
		平 岩	黄 褐	なし	〃	〃	壤 質	壤 質	〃	水積残積	非固結堆積岩固結火成岩	〃	斑鉄・結核あり
		宮 迫	灰褐～黄褐	〃	〃	〃	壤～粘質	壤 質	〃	残積	変 成 岩	畑	斑鉄あり
灰色低地土	灰色低地土壤	針曾根	灰～灰褐	〃	〃	壤 質	壤～粘質	〃	水積	非固結堆積岩	水田	〃	
		深 津	灰 褐	〃	〃	壤 質	砂～壤質	〃	〃	〃	〃	斑鉄・結核あり	
	粗粒灰色低地土壤	鶴多須	灰～黄褐	〃	〃	壤～砂質	砂 質	〃	〃	〃	畑		
グライ土	グ ラ イ 土 壤	寺 津	青 灰	〃	〃	壤 質	壤～粘質	あり	〃	〃	水田	作土直下からグライ斑鉄あり	
		開 正	灰～青灰	〃	〃	壤 質	壤～粘質	〃	〃	〃	〃	40～80cm以下グライ斑鉄あり	

Ⅳ 土地利用現況

1) 明智

本図幅には、旭町の全域と小原村の大部分および豊田市、藤岡町、足助町、稲武町、設楽町の一部が含まれる。三河山地区は400～800mの隆起準平原で花崗岩地質のため開析が進み、山間部にも耕地が細長く入り組んでいる。P7第5表からも読み取れるように当地域の地目別土地利用面積は森林が卓越するが、林相は一様ではない。すなわち、図西部の小原村から旭町にかけては、標高が低く、開析も進んでいるため、広葉樹の割合が相対的に高く、針葉樹もマツ類が主体となっている。また、矢作川沿いには竹林が点在している。これに対し、標高が500mを越える図東部では、針葉樹の割合が高くスギ・ヒノキなどの人工林が主体で、「根羽」図幅地域へと続いている。この地域の林業はかつては薪炭材の生産が中心であったが、燃料革命の進行に伴って次第に減少し、現在では、余剰労働力は隣接する豊田市の自動車工業に吸引されている。

農用地は山間地域であるため、その割合は全般に低いが、小原村・旭町では若干数値が高く、開析の進んだ谷筋に小規模な水田が山中深く開かれている。住宅地は小渡集落に若干の集積がみられるほかは点在しており、その周囲に小規模な畑や桑園がみられる。当地域の東部から「根羽」図幅にかけては牧場が多く、ここで生産される牛乳は名古屋市乳圏の一翼を担っている。図中にも笹形牧場・段戸山牧場などがみられる。

工業用地は極めて少なく、最大の小原村でも僅か7haである。主として自動車関連の部品組立工場であり、小規模でパートの主婦労働力主体のものが多い。小原村を中心として採土地や関連の土石業者がみられ、崩壊地も多い。

矢作川には矢作第一・第二の二つのダムが建設されており、後者では深夜の余剰電力を利用して水を稲武町の黒田貯水池まで汲み上げ、昼間時にその水力で発電するという揚水式発電が行なわれている。

2) 根羽

本図幅には、稲武町の東部と設楽町・津具村および豊根村の北部が含まれる。設楽山地の北部にあたり、愛知県最高峰の茶臼山(1,415m)をはじめ1,000m以上の山々が連なる「愛知県の屋根」と呼ばれる地域である。地目別の土地利用状況(P7第5表)をみると、いずれの町村も森林面積が卓越している。森林の大半は人工林で、樹種はスギ・ヒノキが多い。天然林は人工林の中にところどころ固まってみられ、全体的にはブナやミズナラが多いが、稲武町地内ではコナラやクリが多い。人工林は明治中期より植林されてきたもので、当地域は林業の盛んな地域といえるが、林家一戸当りの森林面積は10ha前後と少なく、100haを越える林家はほとんどみられない。

農地は山間の小盆地や谷川沿いに点在しているが面積的には少ない。稲武町の武節・稲橋の市街地や設楽町の名倉川沿いの地域および津具村の古町地区には谷の広い盆地がみられ、水田が広がっている。こうした地域では、近年、ハウスやトンネルによる施設園芸が拡大しており、トマトやキュウリなどの野菜が生産されている。

住宅地は上述の盆地にそれぞれの町村の中心的集落が形成されており、他は谷あいの平坦地に点在している。

岐阜・長野両県との県境付近は高原状のなだらかな山容であるため、牧場やゴルフ場として利用されている。茶臼山高原道路の開通により、一帯は観光地としても整備されつつある。特に茶臼山周辺はキャンプ場や宿泊施設もあり、春から秋にかけて行楽客がおとずれているが、近年にはスキー場も開設され、冬期のスキー客も賑わいをみせている。

3) 満島

本図幅は愛知県の北東端にあたり、富山村の大部分と津具村の東部が含まれる。一帯は1,000m前後の山地で、この2村の森林面積率も90%以上と、県下でも1・2位を示す。森林は大半が人工林であり、樹種はスギ・ヒノキが多い。一方、天然林はブナ・アカンデなどの広葉樹が多く、人工林の中に点在する。

耕地は山の緩斜面や谷底などにわずかにみられるのみで、畑や樹園地がほとんど

である。畑では、野菜や豆類が主として自家消費用に栽培され、樹園地では、かつての桑に代わって近年では茶が多くなっている。

静岡県との県境の天竜川は、佐久間ダムによりせき止められ、富山村付近では佐久間湖が形成されている。

参考文献・資料

愛知県企画部（１９８６）『土地に関する統計年報 昭和６１年版』

愛知県農地林務部（１９７８）『愛知県林相図』

愛知農林統計協会（１９８７）『第３３次愛知農林水産統計年報 昭和６０～
６１年』

青野寿郎・尾留川正平編（１９６９）『日本地誌第１２巻 愛知県・岐阜県』、二宮書店

環境庁（１９８１）『第２回自然環境保全基礎調査（植生調査）現存植生図 愛知県 ７ 明智』

環境庁（１９８１）『第２回自然環境保全基礎調査（植生調査）現存植生図 愛知県 ３ 根羽』

環境庁（１９８１）『第２回自然環境保全基礎調査（植生調査）現存植生図 愛知県 １ 満島』

農林水産省統計情報部（１９８６）『１９８５年農業センサス 第１巻都道府県別統計書 ２ 愛知県』

農林省統計調査部（１９８２）『１９８０年世界農林業センサス 愛知県統計書（林業編）』

野田美和子（１９８１）「名古屋市乳圏の内部構造」、地理学報告 ５２・５３ 合併号、PP・４５－５５